総　　説

【総　説】

県政沿革

明治元年１月21日　大和鎮台が設置され、のち２月１日大和国鎮撫総督府と改称した。

同　　年５月　　高取藩預り所、奈良奉行所および133ケ所の代官所、旗本、神社、寺院、社家の管理領等を奉還、これにより19日奈良県を設置、知事春日仲襄。

同　　年７月29日　奈良県は奈良府と改称した。

同２年６月17～24日　各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。（郡山県―柳沢氏15．1万石、高取県―植村氏2.5万石、柳本県・芝村県―各織田氏１万石、櫛羅県―永井氏１万石、小泉県―片桐氏1.1万石、柳生県―柳生氏１万石、田原本県―平野氏１万石の八県）

同　　年７月17日　奈良府は奈良県と改称した。

同　３年２月27日　奈良県の一部を分け五條県を置く。

同　４年11月22日　奈良、五條を含む15県を廃し、奈良県を設置、県内を添上、添下、平群、山辺、式上、式下、十市、宇陀、高市、広瀬、葛下、葛上、忍海、宇智、吉野の15郡に分ち統轄した。（県令四条隆平）このとき本県の戸数は95,866戸、人口418,326人となっている。

明治９年４月18日　堺県と合併される。

同　14年２月７日　堺県が大阪府に合併される。15郡を４郡役所で所管。

同　14年11月29日　大和国一覧表によれば15郡261町1333村で戸数99,005、人口476,709人。

同　20年11月４日　大阪府から分離して奈良県が再設置された。

同　　年12月１日　奈良県開庁。（知事税所篤）

　　28日　第１回奈良県議会議員35名の当選告示。

同　21年１月９日　第１回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれた。

同　22年４月１日　町村制が施行された。152町村２組合村。

同　28年12月15日　県庁舎が落成し移庁式を奉行する。

同　30年８月１日　郡制実施され、添上、山辺、宇陀、高市、宇智、吉野の各郡の他、添下、平群を合せて生駒郡、式上、式下、十市を合せて磯城郡、広瀬、葛下を合せて北葛城郡、葛上、忍海を合せて南葛城郡とし、以上10郡となり各郡に郡役所が置かれた。

明治31年２月１日　市制の施行で添上郡奈良町が県内初めての市（奈良市）となる。
大正12年４月１日　郡制廃止。
同　15年７月１日　郡役所廃止。
昭和17年７月１日　県内７ケ所に地方事務所設置。
同　22年４月15日　初の公選知事選挙が行なわれた。
同　30年９月17日　地方事務所廃止。
同　40年３月18日　新県庁舎竣工。
同　59年10月　わかくさ国体開催される。
同　62年11月　奈良県置県100年を迎える。
同　62年12月　第200回奈良県議会開かれる。
同　63年４月　'88なら・シルクロード博開催される。

（総合計画）

昭和28年10月　奈良県総合開発計画及び吉野熊野特定地域総合開発計画発足。
同　39年３月　県新総合開発計画策定。
同　43年３月　第二次新総合開発計画策定。
同　48年３月　長期基本計画（第三次）を策定。
同　53年３月　長期基本計画（第三次）〔修正計画〕を策定。
同　59年４月　奈良県長期基本構想を策定。

位置・面積

近畿の屋根といわれる山岳地帯を南部に持つわが奈良県は、わが国のほぼ中央部、紀伊半島の真中に位置し、周囲を山岳に囲まれた内陸県である。

本県の面積は3,692.15㎢で全国の府県中埼玉県よりやや小さく第40番目にあたる。

また、全国面積の約１％である。

本県の市町村は９市８郡（21町17村）で市部面積698.75㎢、郡部面積2,993.40㎢で県全体のそれぞれ、18.9％、81.1％にあたる。

この内、吉野郡が最も大きく2,257.69㎢で全体の61.1％を占めている。

ついで宇陀郡（10.1％）、奈良市（5.7％）、山辺郡（3.0％）の順となっている。

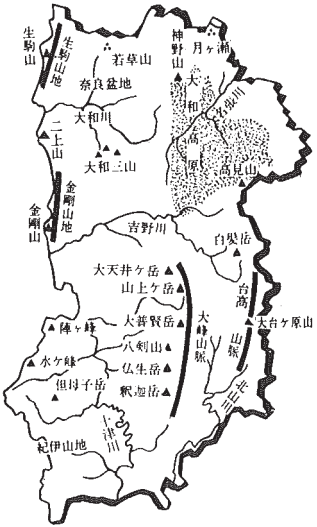
また市町村中最大の面積をもつのは吉野郡の十津川村で669.77㎢で県総面積の18.1％に当たり、全国的にもめずらしい巨村である。

また最少は生駒郡安堵町の4.88㎢である。

東端　東経136度12分　宇陀郡御杖村大字神末
西端　東経135度33分　吉野郡野迫川村大字弓手原
南端　北緯33度52分　吉野郡十津川村大字竹筒
北端　北緯34度47分　生駒市高山
東西の距離　64.13㎞
南北の距離　102.22㎞

地　　形

本県の地形は県のほぼ中央を西流する吉野川を境とし



て北部の低地帯と南部の山岳地帯に分かれる。いわゆる地理学上の中央構造線は吉野川にほぼ沿って通っており北部低地帯は内帯に、南部山岳地帯は外帯にそれぞれ属して、非常に対象的な地貌を示している。

北部低地帯……複雑な丘陵と小盆地からなり、大別すれば大和高原、宇陀山地、および奈良盆地からなり、吉野郡を除くほとんどの市町村はこの北部低地帯に属している。

大和高原は奈良盆地と伊賀盆地に挟まれた高原で、北は木津川、南は初瀬川、宇陀川によってくぎられている。ほぼ400～500ｍの標高を持ち、なだらかな小丘陵が起伏、河川は少ない。添上、山辺郡の各村があり、古代はツゲの国と呼ばれ、その開化は古く、縄文時代早期に属する土器も発見されている。こうした山地のため道路の発達が遅れていたが、昭和44年３月、高原を東西に貫いて名古屋―大阪を結ぶ名阪国道が全面開通し、地理的に閉鎖的であったこの地域の開発が脚光をあびている。

宇陀山地、宇陀盆地、高見山地、室生火山群および竜門山地（独立地形区とも考えられる）からなる複雑な地形区は、大和高原の南方に位置し東部は鈴鹿・布引山脈に接し、西は竜門山地を経て金剛山脈に、南は吉野川の中央構造線におよぶ。

まず宇陀盆地は標高300～400ｍ、小丘陵が点在し、榛原、松山、古市場等の小盆地に分かれている。高見山地は標高1,000ｍ級の山塊が入り組んだ山岳地形である。室生火山群は高見山地の北から西は大和高原、東は布引山脈に接する火山噴出による地形で、東西25㎞、南北15㎞に及び、宇陀郡曽爾村の屏風岩、兜岩、古火山など山容に秀れ、また断層により生じた柱状節理が100ｍ近い

大絶壁をなすなど奇勝に恵まれた地域である。名高い香落渓の景勝地はこの一部である。

竜門山地は南を中央構造線に接し、主峯竜門岳をはじめ、熊ケ岳、多武峯御破烈山、高取山など600～1,000 mの山なみが奈良盆地にのぞみ、西に次第に低く金剛山東側で尽きている。

奈良盆地は県の北西部を占めており、面積は約300㎢で、盆地底の標高が40m～80mの肥沃な沖積盆地である。

盆地面積は県全体の約8％にすぎないが、この平坦で肥沃な地域は水田耕作に適し、古くから開け、古代における国政・文化の中心として発展してきた。今も県の中枢的位置を占めていることは言をまたない。

なお奈良盆地と大阪平野を画して金剛山脈が南北に走り、標高1,125 mの金剛山、葛城山、二上山、生駒山などの山々が約45㎞に亘って連なっている。成因は断層作用によるが、二上火山群などを含み、室生火山群とともに特筆すべき地形区といえる。

南部山岳地帯……県総面積の60％強を占めるこの地区は、紀伊山地の主部にあたり、東部の大台ケ原山(標高1,695 m)を中心とする台高山脈、西部の伯母子山地、さらに中央部の新宮川、北山川の深い渓谷にはさまれて大峯山脈が連なる大山岳地帯である。中央構造線の外帯に属し、雄大な壮年期の地線は北部低地帯と対照的な地形といえる。

また河川は大河川のない北部低地帯に対し、吉野川、北山川、新宮川などいずれも壮年期河川が深いV字渓谷をなして歪流し、山岳美と渓谷美に秀れている。この地域は吉野・熊野国立公園の主要部をなし、林産資源とともに本県の重要な観光資源となっている。

気　　候

本県の気候はその地形と同様、北部と南部でそれぞれの特質をもっている。年次別にはあまり変化はなく、もともと内陸県であるため寒暑の差が大きく、内陸性気候を呈しているが、南部山岳地帯では海洋の影響を強く受けた山岳気候を示している。北部地帯は一般に温暖寡雨で、平均気候は15℃前後、平均降水量も1,200 ～ 1,300 ㎜である。ただし大和高原、宇陀山地など山岳地帯はやや気温は低く13℃前後、降水量は1,600 ～ 1,800 ㎜となっている。南部山岳地方のうち中部は山岳性気候で、平均気温も10℃前後と低く、反面降水量は全国的にも屈指の多雨地帯となっている。

中でも大台ケ原一帯は年間5,000 ㎜に近い降水量がある。南部山岳地方の南部になるにしたがって次第に海洋の影響を強く受け、平均気温も北部低地帯にほぼ近く、雨量は2,000 ㎜を越える温暖多雨地帯となっている。

人　　口

本県の人口は昭和60年10月1日現在で実施された国勢

調査によると1,304,866人で、第1回国勢調査（大正9年）の約2.3倍、わが奈良県が現在の行政区画のもとに誕生した明治20年の約2.7倍に当たる。

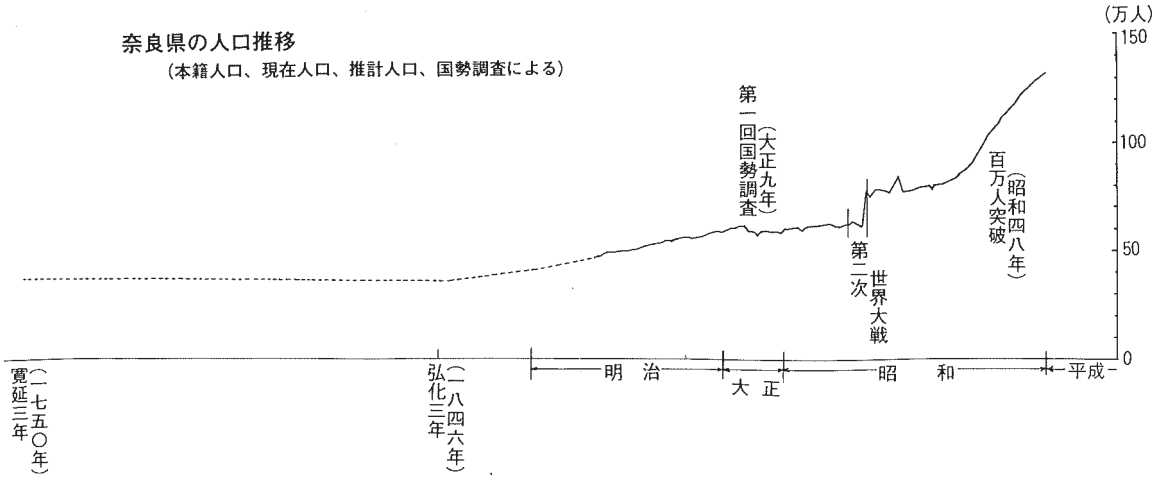
開化の黎明がきわめて早かった本県の古代人口はそれを知る手がかりとして県内各地に遺された多数の文化遺跡によるほかない。

縄文時代の早期(約8,000年前)に始まる本県の古代遺跡は弥生時代を経て古墳時代に至って最盛期に入る。現在考古学的に知られている縄文時代の遺跡は規模も小さく、その人口集落は大きくないと考えられるが県全体で60～70ケ所となっている。(縄文土器の出土地を含む）弥生式遺跡となると百ケ所以上の竪穴式住居を有した唐古遺跡(田原本町)をはじめ橿原遺跡(橿原市)布留遺跡（天理市）など大規模な住居跡が奈良盆地の各所にみられ、さらに住居跡ともみられる土器の出土地は260ケ所にも及んでいる。この遺跡群から推定できる盆地部人口は県外他地域と比べておそらく当時最高の人口密度を有していたであろうことは想像に難くない。大和朝廷成立の必然性を肯定させるに充分である。

飛鳥時代の大和朝廷成立は名実ともに大和をわが国の政治、文化、経済の中心地たらしめた。明日香村に遺る宮跡、橿原市の藤原宮、そして平城宮に至る過程のなかで大和朝廷がなした発展はすなわち日本の発展そのものであったといえる。当然本県の人口も増加したことが想像される。平城宮を中心とする都の人口はおよそ17～19万人という推定がなされているが、この当時の朝貢を示す木簡の存在からおして固定人口のほかにかなりの流動人口が都周辺に在住したとみられる。(現在の奈良市人口は当時を十数万こえており、新しい平城京造りが進んでいる。) また都域外の県内においても各所に所在する神社、仏閣、古代地名などは、いずれもそれを単位とした集落の存在を示すものであり、盆地部を中心とした人口密度の高さを想像させる。

近世に入って江戸時代の寛延3年（1750年）の人口資料として374,041人という記録がある。同じく弘化3年（1846年)には361,137人と社寺の衰微などもあって県の人口はわずかに減少気味であったようである。幕末から明治維新にかけて、そのはげしい文明開化の波をうけて本県の人口も著しく動きはじめた。明治5年の記録では423,004人となっており弘化3年より26年間に6万余人の増となっている。

さらに第1回国勢調査の行なわれた大正9年(1925年)には、564,607人を数えるに至った。明治5年より約半世紀の間に33.5%の増加率を示したのである。本県の場合昭和35年以降にみられる著しい人口の増加が県勢の伸展と正比例した形となっているのは本県の歴史が、新し



い飛躍的発展段階へと突入したことを示している。昭和40年以降の人口推移はさらに一層顕著である。国勢調査において対前回増加率をみると昭和45年12.6％増、55年12.2％増と高い伸びで推移してきた。昭和60年国勢調査では人口1,304,866人となり対前回増加率は7.9％増と昭和55年に比べ4.3ポイント下回り伸びは緩かになってきたものの、全国では、千葉県、神奈川県に次ぎ3位の増加率を示した。

こうした急激な人口増加は昭和38年に始まった一連の総合開発計画による、産業、資源開発、さらに都市圏の膨脹と県の環境とが必然的に惹起した住宅開発等社会的要因が大きな要素となっている。例えば人口の県際間移動(転入、転出)をみると昭和37年までは転出超過であったが、38年に転入超過に転じ以降毎年転入超過となっている。

昭和60年の全国転入(転出)率は2.59％となっているが、本県における転入率は3.35％、転出率は2.72％となっている。転入率は全国で5位となっている。

また、転入超過県における超過率は0.63%で、全国3位となっている。このように、本県は、転入・転出に伴う増加(社会増加)が高く、昭和60年では8,191人増となっている。また、出生・死亡に伴う増加（自然増加）は6,364人増となっている。

【産　業】

奈良盆地を中心として早くから農耕文化が発達し、さらに吉野、宇陀地方の豊富な林産資源にもとづく林業の発達の結果、本県の産業は永らく農業、林業中心の産業構造を示していた。すなわち気候風土に恵まれた本県農業は水田二毛作を中心として農業的先進地域として早くから完成され、これがかえって工業化の隘路ともなって2次、3次産業の発展を妨げてきた。奈良時代に始まるといわれる墨、蚊帳、茶筅などの伝統工業がその高度な技術水準により栄えはしたが、それはあくまで家内工業的性格が強く、これが近代に至って県の工業化を推進する原動力となるには至っていない。

本県の本格的な工業化は明治30年代の綿糸紡績とメリヤス工業に始まると考えられる。しかし、それはまだ強固な農林業基盤のうえにたった工業化で、このため農業依存から完全な脱皮が遅れ、かえって工業基盤は零細で大工場の発展を妨げ工業化を遅らせる一因となってきた。とにかく本格的な工業化は繊維工業に始まり、漸次ゴム履物、材木製品等の軽工業を中心に発達した。しかしいずれも先に述べたように農林業基盤に依存した工業化というきわめて特殊な事情から脱却するのが遅く、しかも港湾、河川に恵まれない立地条件の制約もあって軽工業中心のそれも工業基盤の弱い下請小企業が中心であったため農林業県としての位置は第2次大戦後まで持ちこされることとなった。

かつて本県の経済は、農林業を基盤においていたが、昭和30年後半に急速に進行した工業化、都市化により、農地の宅地・工業化、農業人口の他産業への流出、山間部の過疎化による林業従事人口の減少等がおこっている。また、内陸型工業の育成を目ざし公害のない工場の誘致等による第2次産業、第3次産業の進出により、本県産業構造は急激に変化してきた。

昭和60年国勢調査により本県の産業別就業者数をみると表1のとおり15才以上の就業者566,057人のうち製造業が25.6%を占めて最も多く、ついで卸・小売業、飲食店が22.5%、サービス業が22.4%とつづいている。

これに対し、大正9年は農業が48.9%と全産業の約半数を占め、ついで製造業が17.5%となっている。また、昭和30年になっても農業が38.5%と最も多く、ついで製造業が17.4%、卸・小売業が13.3%とつづいている。さらに、大正9年に比べ産業別に昭和60年就業者数の増加

率をみると全就業者数が159.6％増に対し、農業は69.6％の減少、逆に製造業は277.9％の増加と実に3倍以上の増加率となっている。このような農業就業者数の減少と逆に製造業および第3次産業関係の就業者数の増加は、昭和30年以後になって特に著しく、それだけ本県産業構造の急激な変化を物語っているといえよう。因みに、県内総生産から産業構造をみると第1次産業は、昭和50年度に7.6％の構成比を占めていたが、55年度には4.4％、59年度には3.3％と低下しているのに対し、第3次産業は50年度に49.0％であったのが59年度には55.8％と増加しており、産業構造の変化を示している。

（表1）　産業別就業者数の推移　（単位:人,％）

区分	昭和60年		昭和30年		大正9年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
農業	32,436	5.7	125,946	38.5	106,780	48.9
林業・漁業	3,605	0.6	9,866	3.0	5,925	2.7
鉱業	91	0.0	741	0.2	333	0.2
建設業	41,724	7.4	17,138	5.2	5,571	2.6
製造業	144,654	25.6	56,933	17.4	38,278	17.5
卸・小売業	127,172	22.5	43,497	13.3	22,656	10.4
サービス業	126,905	22.4	38,022	11.6	18,320	8.4
その他の産業	89,470	15.8	35,222	10.8	20,191	9.3
合計	566,057	100.0	327,365	100.0	218,054	100.0

また、本県の県内総生産を昭和50年度と60年度の2時点で比較すると、総額では2.4倍になっている。産業別でみると最も著しい発展をとげたのは第3次産業で2.5倍である。第2次産業も2.3倍と増加しているものの第1次産業は、50年度とほぼ同等と不振がめだっている。業種別では、電気・ガス・水道業の4.3倍を最高に水産業3.6倍、サービス業3.2倍、不動産業3.1倍、運輸・通信業2.9倍、製造業2.6倍と続いている。

また、県民総支出と県内総支出の差額すなわち県外からの純所得は1.5倍となっている。

【農　業】

本県農業は現在きわめて厳しい環境下におかれているが、農業生産の基盤である経営耕地面積は、都市化の影響により減少しているもののなお農用地の造成などにより昭和60年では22,386haをようしている。

経営規模においても1.5ha以上の農家が徐々にではあるが増加の傾向にあり、最近では3ha以上の農家の出現もみられる。

農家数については安定兼業農家が増大し、専業率は60年には9.8％になった。今後農業後継者の育成、確保が重要な課題である。

農業生産面では高収益農業の推進により野菜・果樹・花き・茶・畜産等生産団地の育成と需給動向に即応した

営農が展開されている。

特に施設園芸は、その生産性の高いことから急速な伸びを示し、イチゴの生産高においては全国でもトップクラスにある。

農家経済面では農業所得への依存度は12.3%(昭和62年)と低いが、農家所得は順調に推移している。今後は大都市近郊という立地条件等を生かし、生鮮食料品の供給基地として、生産の振興を図るとともに、豊かな明るい農村づくりを進めていかねばならない。また、流通面でも、県中央卸売市場の円滑な運営を通じて生鮮食品の価格安定を図っている。

【林　業】

本県の林業は県総面積の約78%を占める豊富な森林面積と膨大な材積を背景に県の基幹産業としての地位を占めてきた。とくに吉野山間地域は気候条件にも恵まれ、さらに山林所有の大半が民有であったことが山林経営にも独創的な姿勢となって現われ、これがために本県林業は全国林業界でも有力な地位を占めたといえる。古くから行なわれた人工更新の結果、吉野杉で代表される良材の産出、1ha当り170㎥(民有林)と全国平均の約1.5倍の材量(昭和62年度末)など、その山林経営の足跡は全国的に高く評価されている。

また吉野地方や桜井方面に発達した製材工業はこうした林産資源の加工供給ルートとして現在も本県工業において大きな位置を占めている。

しかしながら最近山林労務者の他産業流出による人手不足が賃金の高騰をよび、それが素材原価にはねかえって国内材の価格が高騰し、加えて建築構造の変化による建築資材の多様化、安い外材の流入による市場圧迫などきびしい環境におかれている。

【工　業】

古代文化発祥の地である本県は同時にいろいろな産業の発祥の地でもあった。大和時代には墨・筆・和紙・薬が、奈良時代には漆器・素麺・酒が、また室町時代には茶筅・箸・赤膚焼・奈良晒などが始まっており、本県産業の基礎を形成した。

現在、本県産業の中心となっているのは、日本三大美林の一つ吉野杉を背景に古くから吉野地域を中心に発展してきた製材業・靴下・ニット・織物など、戦後の高度成長期に著しい成長を遂げた繊維業、同じく高度成長期の県外大資本の導入により大企業の占めるウエイトの高い機械・金属業などである。

近年の円高定着により、経済環境は厳しいものではあるが、製材業では内需型経済移行にともなう住宅着工の増加により需要に明るさがでてきており、また、繊維業界では、製品のファッション化、高品質化を図ることに

よってＮＩＥＳ等からの製品輸入の増大、消費者ニーズの多様化、高級化への対応を進めている。さらに、円高の影響の大きかった機械・金属・プラスチックの業界も、企業努力と堅調な内需に支えられ、設備投資に力強さがでてきているなど、本県第２世紀に入り、今後一層の飛躍が期待されるところである。

【文化・観光】

文化と呼ぶかぎり本県における萌芽はきわめて早かったということができる。縄文時代早期から古墳時代に至る先史時代のなかで、恵まれた本県の地理的位置、自然環境が同時代文化の成長に大きく寄与したことは論をまたない。無数といえる縄文・弥生式遺跡の質・規模、さらに広壮な前方後円墳を中心とした、古墳群の存在はそれを確証づけるものである。そのため他地域にまして本県が、わが国において占めた文化的位置はきらびやかなものがあった。古墳時代の終わりからわが国における政治権力は本県に集中し、その結果、飛鳥・奈良時代に至る約200年間にわたって文化の中枢部は本県が独占した。今に遺された社寺建造物、文化財そして多くの考古学遺跡を包含した歴史的風土はかつての隆栄を偲ばせるにあまりあるものである。

こうした文化遺産を強固な基盤として本県の文化は現在もきわめてユニークなものをもっている。古い文化遺産と新しい文化がきわめて自然に融合した歴史的文化都市としての位置づけがそれである。勿論県政の推進もそこに重点がおかれている。近年の急激な都市開発と豊富な文化遺産、歴史的風土の保存をいかに調和させるかの視点に立って諸施策を進めることが何よりも望まれている。昭和42年に新しく古都保存法が制定され従来の風致地区の指定を一歩すすめた強力な保存政策が打ち出されたが、こうした法律の外にある歴史的風土・文化遺産も、本県にとっても、わが国にとってもきわめて大切なものである。これらを保存し後世に伝えていくのはわれわれの重要な責務といえる。昭和44年に知事が提唱した「緑を守る運動」はこうした本県の持つ良さ、文化遺産、風土も含めてその良さを保持し、さらに明るく近代的な文化生活を実現するためのすべての政策を「緑」というシンボルによって凝縮したもので、この運動方針は毎年県の重要施設の中に取り入れられている。

県民の文化向上も県政の重要な施策としてとりあげられてきた。この結果、県文化会館、県立美術館、橿原公苑、県立民族博物館、県立橿原考古学研究所付属博物館、県立図書館等が開設され、さらに中南和地区の文化活動の拠点となる橿原文化会館が建設された。

また、県内公園の整備等にも力が入れられており、史跡公園としての平城宮跡は新しい姿としてのこれからの

史跡の保存と活用にひとつの方向を示している。

また青少年野外活動センターは健全な青少年の利用を待っており、こうした体育文化施設の充実が、今後県民の文化生活に大きく寄与することはまちがいない。古く新しい奈良県の文化の基礎がきずかれたのである。

本県の観光は、奈良盆地を中心とした史跡・古社寺等の文化財観光と東部・南部山岳地域の自然観光に大別される。奈良、明日香、斑鳩、当麻をはじめとする盆地各地に古文化財や史跡の豊富な観光対象を持ち大和ならではの歴史的風土とともに盆地全体があたかも史跡公園といった景観を呈している。奈良を訪れる人は「奈良詣」「初瀬詣」などと称し、江戸時代頃から盛んであった。大和名所図絵などにはよくその様が描かれている。かつて本県の観光はこうした古社寺文化財を対象とした観光であったが、全国的な都市化によって緑が失われていく昨今、奈良の持つ歴史的風土は憩の場としての新しい観光分野にも価値を持ちはじめている。

本県の観光は毎年およそ4,000万人の内外の訪客を迎えている。修学旅行や外国人観光客は古社寺めぐりが多く、一般観光客はこれに加えて大和ならでは味わえぬ緑と空間、そこに残された民族の遺産に生活のやすらぎを求める傾向にある。すなわち本県観光が他に誇り得た文化財観光に今ひとつ空間観光（緑と空気）の分野が加えられ、国際観光地としてもその要求に充分応え得る資格を、持っているのである。

そういう意味で東部・南部山岳の持つ観光的価値もまた大きいものがある。古代都介国を中心とした東山中、吉野山の桜と史跡、吉野熊野連山の雄大な自然景観は大都市から至便な位置にあるため、近時大きくクローズアップされている。

吉野山は千年以上の歴史を持つ桜と、義経や南朝にまつわる史跡、西行、芭蕉の文蹟など、歴史と文学の香り高い観光地である。

またその奥地には大和アルプスと称される大峯山脈を中心に2,000 m級の山々が連らなり、山岳と渓谷美に富む一大山岳観光地が展開する。昭和36年、大台ケ原山への自動車道が開通し登山が簡便となり、1,600 m級の山上も気軽に親しめるようになった。

観光が「物見遊山」から人間性のかん養へとうつり変りつつある時代、観光奈良県は自ずとその価値を増しつつあるのである。

県内公園面積・施設一覧

(64. 1. 1.現在)

公園の種類	公園名	面積	公園の特徴	施設概要
国立公園	吉野熊野国立公園	ha 総面積 59,103 県内 31,298	桜と南北朝の歴史で有名な吉野山、近畿の屋根といわれ修験道の行場としてまた渓谷景観で有名な大峯山系、原生林と笹原のひろがる大台ヶ原山などが含まれる。最南端の瀞峡は和歌山、三重との3県にまたがる。	大台ヶ原山…駐車場、休憩所、博物展示室、日出ヶ岳展望台、回遊歩道、給水施設、宿泊施設等 大峯山系…歩道・山小屋（稲村ヶ岳、行者還岳、弥山、和佐又山、揚子ヶ宿、狼平）洞川自然研究路、宿坊（山上ヶ岳、前鬼） 吉野山…駐車場、休憩所、便所、桜展示園、回遊歩道等、ビジターセンター、国民宿舎）
国定公園	金剛生駒国定公園	総面積 15,564 県内 4,879	奈良、大阪の府県境の両側を南北に連なり、金剛山、葛城山、二上山、屯鶴峯、信貴山、生駒山、黒滝池等を包括する。	金剛山…休憩所、公衆便所、金剛葛城縦走歩道 葛城山…休憩所、公衆便所、国民宿舎、ロープウェイ、ビジターセンター、回遊歩道 信貴山…展望休憩所、国民宿舎 生駒山…回遊歩道、国民宿舎、山上遊園地、信貴生駒ドライブウェイ、稜線縦走歩道
国定公園	高野竜神国定公園	総面積 19,213 県内 5,171	野迫川村の西部と十津川村の西北部県境を和歌山県にまたがり、奈良県側には伯母子岳、護摩壇山、立里荒神等が含まれる。	自動車(高野山－護摩壇山－竜神)、公衆便所、休憩所、園地
国定公園	大和青垣国定公園	5,742	わが国で最も古くできた道といわれる山の辺の道周辺地域と、春日山隠接地、三輪山、天神山、長谷寺境内、石上神宮境内、景行・崇神天皇陵、それに自然景勝地である柳生街道周辺地域等が含まれる。	東海自然歩道、休憩所、便所
国定公園	室生赤目青山国定公園	総面積 26,308 県内 12,744	初瀬・宇陀川の断層地を構成する貝ヶ平山、香酔山、頼井岳等の大和高原南部地域、火山群特有の地形である小太郎岩、鎧岳、兜岳、屏風岩等の室生火山群地域及び高見山地域が含まれる。室生火山群地域及び高見山地域は、ススキの草原、ブナの天然林等で有名。	東海自然歩道、休憩所、便所、国立曽爾少年自然の家
県立自然公園	矢田自然公園	524	大和郡山市の西方に連なる丘陵で、郡市近郊における貴重な自然緑地であり、松尾寺、金剛山寺、東明寺、霊山寺、樫ノ木大師等を含む。	回遊歩道、駐車場、休憩所、便所、子どもの森、自然研究路
県立自然公園	吉野川津風呂自然公園	2,462	吉野川流域の奇岩及び渓谷美に津風呂湖及び飛鳥・奈良時代の史跡	公園標識、園地
県立自然公園	月ヶ瀬神野山自然公園	507	梅の名所月ヶ瀬と大和高原における秀麗な山としてまたツツジの名所として知られる神野山が含まれる。	遊歩道、公園標識、休憩所、便所
県立都市公園	奈良公園	502	遠く8世紀以来の日本の自然と文化を累積した自然人文総合公園ともいうべき世界的な公園である。	特別天然記念物春日山原始林、史跡芝塚、春日山周遊道路、春日野運動場、春日野庭球場、若草山、レストハウス、駐車場
県立都市公園	竜田公園	14	竜田川流域の紅葉、三室山の眺望と桜	休憩所、便所、橋梁
県立公園	吉野公園	19	省略（国立公園吉野山地区に包含される）	園地、便所

資料：県観光課

主要山岳一覧表 （単位：海抜m）

山岳名	標高	所在地	山岳名	標高	所在地
若草山	342	奈良市	稲村ヶ岳	1,726	吉野郡天川村
高円山	432	〃	観音峰山	1,347	〃
高峯山	633	天理市福住（奈良市境）	伯母子岳	1,344	吉野郡野迫川村（十津川村境）
耳成山	140	橿原市	釈迦ヶ岳	1,800	吉野郡十津川村（下北山村境）
天香久山	152	〃	大日岳	1,593	〃
畝傍山	199	〃	地蔵岳	1,250	〃
生駒山	642	生駒市（大阪府境）	笠捨山	1,352	吉野郡十津川村（下北山村境）
神野山	619	山辺郡山添村	孔雀岳	1,779	〃
倶留尊山	1,038	宇陀郡曽爾村（三重県境）	玉置山	1,076	〃
三峰山	1,235	宇陀郡御杖村（三重県境）	牛廻山	1,207	吉野郡十津川村（和歌山県境）
高取山	584	高市郡高取町	鉾尖山	1,319	〃
二上山（雌岳）	474	北葛城郡當麻町	日ノ出岳	1,695	吉野郡上北山村（三重県境）
金剛山	1,125	御所市	八剣岳	1,915	吉野郡上北山村（天川村境）
葛城山	960	〃	大普賢岳	1,780	〃
乗鞍岳	993	吉野郡西吉野村（天川村境）	仏生ヶ岳	1,805	吉野郡上北山村（十津川村境）
山上ヶ岳	1,719	吉野郡天川村	三津川落山	1,654	吉野郡上北山村（三重県境）
行者還岳	1,546	〃	高見山	1,249	吉野郡東吉野村（三重県境）

資料：国土地理院

主要ダム一覧表

名称	所在地	型式	堤頂長	堤高	堤体積
			m	m	m³
九尾ダム	吉野郡天川村	重力式コンクリートダム	98.2	26.5	12,077
川迫ダム	〃 〃	〃	111.6	36.5	39,920
猿谷ダム	〃 大塔村	〃	169.5	74.0	174,000
津風呂ダム	〃 吉野町	〃	240.0	54.3	222,300
風屋ダム	〃 十津川村	〃	329.5	101.0	587,619
二津野ダム	〃 〃	アーチ式コンクリートダム	210.6	76.0	120,000
坂本ダム	〃 上北山村	〃	256.3	103.0	173,780
池原ダム	〃 下北山村	〃	460.0	111.0	646,600
大滝ダム	〃 川上村	重力式コンクリートダム	360.0	100.0	867,000
大迫ダム	〃 〃	アーチ式コンクリートダム	222.3	70.5	158,000
須川ダム	奈良市須川町	〃	107.0	31.5	12,300
南畑ダム	生駒郡三郷町	重力式コンクリートダム	83.0	28.0	12,600
室生ダム	宇陀郡室生村	〃	175.0	63.5	153,000
旭ダム	吉野郡十津川村	アーチ式コンクリートダム	199.4	86.1	147,300
瀬戸ダム	〃 〃	ロックフィルダム	342.8	110.5	3,740,000
天理ダム	天理市長滝町	重力式コンクリートダム	210.0	60.5	193,000
初瀬ダム	桜井市初瀬町	〃	212.5	55.0	160,000
布目ダム	奈良市丹生町	〃	322.0	72.0	370,000

資料：県開発調整課

主要河川一覧表

河川名	上流端	延長	河川名	上流端	延長
淀川水系(一級河川)		286,100m	米川	桜井市大字高家	8,835m
白砂川	奈良市横田町字下ナラ	14,700m	佐保川	奈良市中ノ川町	14,823m
打滝川(今川を含む)	〃　別所町	10,300m	秋篠川	〃　中山町	9,600m
布目川	天理市福住町	24,000m	岩井川	〃　鹿野園町	6,730m
名張川	オオクタ川の合流点	16,300m	能登川	〃　高畑町字市の井	3,500m
遅瀬川	山辺郡山添村大字切幡	11,800m	布留川	天理市苣原町	11,220m
笠間川	〃　都祁村大字吐山	14,400m	紀の川水系(一級河川)		350,290m
宇陀川(黒田川を含む)	宇陀郡大字陀町大字宮奥	26,160m	紀の川(吉野川を含む)	三公川の合流点	70,050m
室生川	〃　室生村大字田口元上田口	13,400m	丹生川	吉野郡黒滝村大字中戸	32,100m
青蓮寺川	タコラ川の合流点	16,850m	宗川	〃　西吉野村大字西日裏	12,000m
菅野川	ミナノ川の合流点	7,300m	紅葉川	〃　〃　大字唐戸	3,300m
大和川水系(一級河川)		590,922m	脇川	〃　黒滝村大字槇尾	4,880m
大和川	桜井市大字小夫地先	42,371m	宇智川	五條市久留野町字木ノ川	8,380m
葛下川	北葛城郡當麻町大字南今市	14,740m	秋野川	吉野郡下市町大字立石	7,450m
信貴川	生駒郡三郷町大字勢野	2,000m	八鳥川	〃　大淀町大字檜垣本	2,400m
竜田川	生駒市俵口町	13,239m	竜門川	〃　吉野町大字西谷	6,000m
東生駒川	生駒市小明町	2,000m	津風呂川	宇陀郡大字陀町大字栗野	17,600m
富雄川	生駒市高山町	21,614m	高見川	吉野郡東吉野村大字杉谷	22,300m
岡崎川	大和郡山市今国府町	5,500m	鷲家川	〃　〃　大字鷲家	9,800m
曽我川	御所市大字重阪	26,896m	新宮川水系(一級河川)		414,612m
高田川	北葛城郡新庄町大字南藤井	13,045m	新宮川(川迫川、天川、十津川を含む)	吉野郡天川村大字北角	113,700m
葛城川	御所市大字鴨神	23,246m	北山川	〃　上北山村大字西原	50,540m
飛鳥川	高市郡明日香村大字栢森	22,296m	西の川	〃　下北山村大字池峯	12,900m

資料：県河川課

市郡別民有地土地面積(課税対象分)

(単位：1,000 ㎡)　　(各年1月1日現在)

市町村	総面積	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地			
								計	ゴルフ場	鉄軌道用地	その他
昭和61年	1,448,620	238,591	83,050	115,674	9,135	957,880	16,390	27,885	10,082	2,804	14,999
62	1,444,797	237,148	83,508	117,092	9,126	953,500	16,393	28,027	10,100	2,791	15,133
63	1,438,616	234,286	83,263	120,005	9,034	945,620	16,328	30,080	10,939	2,795	16,346
奈良市	132,605	27,137	7,134	26,024	4	62,544	1,379	8,383	3,843	350	4,190
大和高田市	11,731	5,520	705	5,162	1	49	18	276	—	116	160
大和郡山市	26,832	14,869	1,477	8,238	340	1,092	113	703	38	108	557
天理市	51,241	20,407	4,410	5,702	51	17,969	493	2,209	1,242	40	927
橿原市	25,879	12,989	1,984	2,938	10	866	22	1,070	35	319	716
桜井市	51,101	12,722	4,672	5,923	40	26,373	423	948	187	233	528
五條市	55,135	13,348	4,938	3,865	231	30,146	1,393	1,214	1,026	—	188
御所市	38,076	14,054	1,936	3,272	6	18,205	315	288	—	51	237
生駒市	30,676	8,072	870	7,581	34	11,227	335	2,557	124	202	2,231
添上郡	13,661	1,808	2,078	344	—	8,543	64	824	446	—	378
山辺郡	59,809	11,450	6,553	1,848	82	35,844	1,257	2,775	1,636	—	1,139
生駒郡	28,181	9,420	2,251	6,480	19	9,354	15	642	325	125	192
磯城郡	22,010	14,807	1,861	4,982	—	—	—	360	—	126	234
宇陀郡	202,572	23,874	11,653	5,084	477	156,052	2,691	2,741	1,660	321	760
高市郡	28,846	7,816	3,369	1,778	1	15,666	58	158	—	85	73
北葛城郡	61,765	24,658	4,105	17,059	86	13,562	265	2,030	7	486	1,537
吉野郡	598,496	11,335	23,267	7,725	7,652	538,128	7,487	2,902	370	233	2,299

資料：県地方課「固定資産概要調書」
(注)　ラウンドのため内訳と合計は一致しないことがある。
　　御所市の原野に牧場が含まれている。

奈　良　市　の　気　象

年月別	気温(平均)℃			湿度%	降水量 mm		風速m／s	
	日平均	最高	最低	平均	年月量	1時間最大	速度平均	最大瞬間
昭和59年	14.0	19.4	9.5	71	1,020.0	36.0	1.7	19.6
60	14.8	20.1	10.3	72	1,481.5	45.0	1.7	24.6
61	14.2	19.7	9.4	71	1,231.5	30.0	1.7	21.3
62	**15.0**	**20.2**	**10.4**	**73**	**1,116.5**	**35.0**	**1.7**	**22.4**
62年1月	4.4	9.1	0.5	69	68.0	11.0	2.0	16.2
2	4.7	9.7	0.6	69	41.5	3.5	2.1	17.8
3	7.4	11.9	2.7	71	124.0	11.5	2.1	14.9
4	13.0	19.3	6.9	63	47.5	4.5	1.7	13.8
5	17.8	23.4	12.1	71	153.0	10.0	1.5	15.0
6	22.3	27.8	17.1	70	114.0	23.0	1.6	16.3
7	26.2	30.6	22.5	79	176.0	29.5	1.6	15.4
8	27.0	32.3	22.7	76	79.5	35.0	1.5	15.5
9	22.2	26.9	18.0	77	98.0	15.0	1.6	12.4
10	17.5	22.5	13.2	78	154.5	26.0	1.6	22.9
11	11.1	16.5	6.5	80	42.0	6.5	1.3	12.9
12	6.4	11.9	1.9	74	18.5	2.0	1.4	14.4

資料：奈良地方気象台

県内各地の気象　（昭和62年）

観測地点 / 気象項目	奈良	大宇陀	針	上北山	風屋	田原本	五條	曽爾
気温年平均℃	15.0	12.8	12.0	12.8	13.8	—	14.8	—
最高気温℃(平均)	20.2	18.3	16.9	18.8	18.5	—	20.6	—
最低気温℃(平均)	10.4	7.8	7.2	8.2	9.9	—	9.7	—
降水量 mm	1,116.5	1,337	1,161	1,774	1,750	1,050	1,019	1,326

資料：奈良地方気象台

奈良県で感じた主な地震　（昭和62年）

月日	震度	発震時	震源			
			震源地	北緯	東経	深さ
5月9日	2	12時54分	和歌山県北部	34度09分	135度25分	8 km
5月28日	2	06時03分	京都府中部	35度00分	135度32分	17 km
8月21日	3	11時55分	大阪府北部	34度49分	135度35分	14 km
12月1日	2	01時41分	奈良県北部	34度44分	135度55分	13 km

資料：奈良地方気象台